

## 6 畜産農家における外国人従業員の業務実態調査と衛生意識向上の取組

県南家畜保健衛生所

猿山由美、小宅香苗、渡邊絵里子

はじめに

これまで畜産農家に対する特定家畜伝染病対策として、飼養衛生管理基準遵守指導を強化してきたが、対象は主に畜主であった。一方、近年増加している外国人従業員（以下、外国人）が衛生管理や家畜疾病について、どの程度理解しているかは把握できていなかった。外国人の理解不足が認められた場合、農場内への家畜疾病の侵入リスクを高めることが懸念された。

そこで、外国人に関する業務実態調査を行い、課題を洗い出し、理解不足が認められた農場について改善指導を行い、外国人を含めた農場全体の衛生意識向上を図ったので、その概要を報告する。

### 業務実態調査

外国人に関する業務実態調査は以下の項目について実施した。また、調査を実施した養豚場のなかに優良事例があったので紹介する。

#### 1 県内畜産農家における外国人の雇用人数と国籍の調査

##### （１）内容

県内の牛、豚及び鶏農家における外国人の雇用人数を大規模、中規模及び小規模別に調査した。また、外国人の国籍についても調査した。

##### （２）結果

県内 1,697 戸のうち外国人を雇用している

農家は 100 戸で計 375 名を雇用していた。また、大規模農家では 3 割から 5 割、豚農家では中規模でも 2 割が雇用していた。1 戸当たりの最大雇用人数は酪農家で 30 名だった（表 1）。また、外国人 375 名の国籍は 10 か国以上で、インドネシア、ベトナム、タイ、中国、フィリピン、カンボジアのアジア圏が多く、インドネシア、ベトナム、タイで約 6 割を占めていた（図 1）。

表 1 県内畜産農家における外国人雇用人数

| 家畜の種類    | 牛   |       |    | 豚  |    |    | 鶏  |    |     | 合計    |
|----------|-----|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-------|
| 規模       | 大   | 中     | 小  | 大  | 中  | 小  | 大  | 中  | 小   |       |
| 戸数       | 59  | 1,186 | 15 | 35 | 93 | 37 | 11 | 84 | 177 | 1,697 |
| 外国人がいる戸数 | 21  | 30    | 0  | 16 | 21 | 1  | 6  | 5  | 0   | 100   |
| (%)      | 36  | 3     | 0  | 46 | 23 | 3  | 55 | 6  | 0   | 6     |
| 人数       | 183 | 62    | 0  | 49 | 46 | 0  | 25 | 10 | 0   | 375   |
| 最大雇用人数   | 30  | 7     | 0  | 11 | 5  | 0  | 6  | 2  | 0   | 61    |

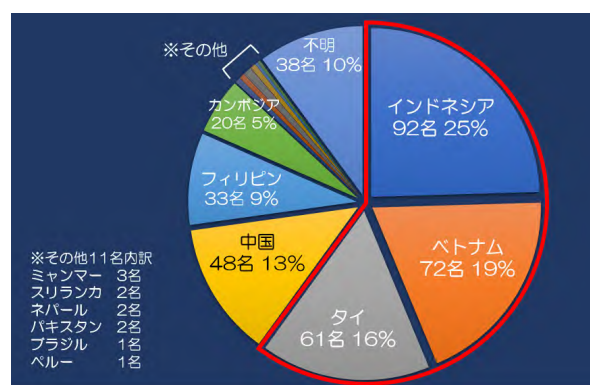


図 1 外国人の国籍内訳

#### 2 外国人を雇用する管内 5 戸の畜主への聞き取り

##### （１）内容

協力を得られた管内の A～D 養豚場 4 戸及

びE養鶏場1戸の畜主に、当所で作成した聞き取り項目に基づき、受入れ状況、コミュニケーション方法、指示している作業内容及び衛生管理や家畜疾病等について、アンケート形式で聞き取りを行った。

## （2）結果

各養豚場では外国人を交代しながら継続雇用しており、現在はベトナム人4名、ネパール人1名、タイ人4名を雇用していた。ほとんどが技能実習生だったが、日本人配偶者がいる永住者もいた。E養鶏場では労働力不足を補うため、派遣会社から派遣された外国人がいたが、今後は日本人従業員に切り替えていくとのことだった。

コミュニケーションについては日本語、ジェスチャー及び翻訳ツールで行い、また文字にすると理解しやすいことからLINEを活用している農家もあった。畜主の感覚として、作業の指示は概ね伝えることができており、衛生管理や家畜疾病については共有不足だが、特に問題はないと認識していることがわかった（表2）。

表2 畜主への聞き取り結果

| 農場        | A（豚）                  | B（豚） | C（豚） | D（豚） | E（鶏） |
|-----------|-----------------------|------|------|------|------|
| 受入初年      | 2004                  | 2010 | 2011 | 2016 | 2023 |
| 延べ人数      | 10名以上                 | 8名   | 5名   | 2名   | 2名   |
| 国籍と現人数    | ベトナム4名<br>ネパール1名      | タイ2名 | タイ1名 | タイ1名 | タイ1名 |
| コミュニケーション | 日本語、ジェスチャー、翻訳ツール、LINE |      |      |      |      |
| 作業の指示     | 概ね伝えられる               |      |      |      |      |
| 衛生管理・家畜疾病 | 共有不足                  |      |      |      |      |
| 苦労している点   | 特になし                  |      |      |      |      |

## 3 管内養豚場4戸で働く外国人6名への聞き取り

### （1）内容

A～D養豚場4戸の外国人6名に、当所で作成した聞き取り項目に基づき、畜産の経験の有無、飼養衛生管理基準、飼養衛生管理マニ

ュアル、豚熱及び日本語の理解度について、アンケート形式で聞き取りを行った。

### （2）結果

出身国での畜産経験者はおらず、飼養衛生管理基準について全員が知らないと回答した。また、飼養衛生管理マニュアルと豚熱についてA養豚場の勤務年数の長い2名は知っていたが、他の4名は知らなかった。

日本語の理解について4名がわかると回答したが、実際の受け答えでは理解していない様子も見られ、畜主の認識と外国人の理解度には大きな差があることが判明した（図2）。

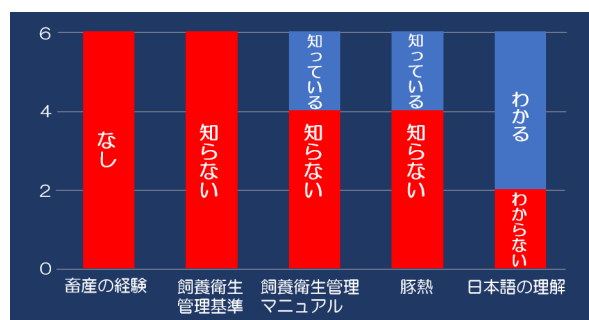


図2 外国人への聞き取り結果

### 優良事例

今回調査したA養豚場では、豚舎をエリア分けしエリアごとに長靴の色を示した「長靴MAP」を作成しラミネートして、持ち運びと消毒ができるようにしていた（図3）。また、各豚舎出入口に履き替えの長靴の色を示すイラスト付きの注意喚起標識を掲示していた（図4）。更に、清浄エリアと汚染エリアの境界線を地面に標識し、意識付けをしていた（写真5）。

これらはもともと日本人向けに作成されたものだったが、外国人にも視覚的にわかりやすく農場ルール徹底に役立っており、非常に参考になる取組だった。



### 図3 農場マップの作成



図 4 長靴の履き替え標識



写真 5 境界線の標識

## 課題の洗い出しと指導

調査結果から、外国人は衛生管理や家畜疾病について理解不足であり、日本語の理解度を考慮すると、日本語での衛生指導は困難であることが判明した。優良事例のように注意

喚起はイラスト等を使うと視覚的に伝わりやすいことを参考に、理解不足が見られた B～D 養豚場で以下の指導に取り組むことにした。

## 1 外国人向け勉強会の開催

勉強会の最初に、飼養衛生管理基準及び豚疾病を理解してもらうため、農林水産省の「飼養衛生管理基準ガイドブック（豚、いのしし編）」<sup>1)</sup>と国立環境研究所の「豚熱を解説する動画」<sup>2)</sup>を You Tube の母国語字幕付きで視聴した。母国語字幕は You Tube の設定ボタンをクリックし、任意の言語を 156 言語の中から選択するだけで、簡単に自動で表示される。外国人は動画を真剣に視聴しており、他の農場でも同様の反応が見られた（図 6）。



図 6 母国語字幕付きで You Tube 視聴

更に最も重要な豚疾病で特定家畜伝染病である豚熱及びアフリカ豚熱、衛生管理の3原則である「持ち込まない、拡げない、持ち出さない」<sup>1)</sup> について、母国語で作成したオリジナルテキスト（図7）を見せながら説明した。テキストの作成は日本語からフリーの翻訳ソフトで母国語に翻訳し、更に翻訳された文章をスマホの google レンズの翻訳機能で再確認し間違いがないようにした。

なお、各農場で開催した勉強会の所要時間は約 30 分で通常業務に支障はなかった。



図7 母国語オリジナルテキスト

## 2 外国語オリジナル注意喚起標識の作成及び掲示

農場内での継続的な意識付けを目的とした注意喚起は「手指消毒」「長靴、衣類の交換」「野生動物を農場に入れない」の重点3項目と牛飼養者向けの「長靴の消毒」について外国語表記とイラストで、一目でわかる標識を作成し掲示した。標識は5言語（インドネシア、ベトナム、タイ、クメール、中国）で作成し（図8）県内他家保へも提供した。



図8 「手指消毒」タイ語標識

### 指導結果

以上の指導終了後に効果確認を行った。勉強会について外国人にアンケートを行ったところ「飼養衛生管理基準、豚熱及びアフリカ豚熱の理解が深まり今後の仕事に役立つ。」自由意見では「母国語なので内容が良くわかった。」という回答が得られた。また

掲示した標識内容を継続して実施可能か確認したところ「実行できる。」との回答であり、衛生意識向上が確認された。

### 成果

取組の成果として、外国人向けの勉強会開催と外国語標識の作成及び掲示を行い、課題となっていた外国人の理解不足を解消した。また、翻訳ツールやYouTube活用による視覚的な注意喚起を行い、簡便、短時間かつ有効な衛生指導方法を構築することができた。

以上のことから、衛生対策の見落としをカバーでき、外国人を含めた農場全体の衛生意識向上並びに疾病の侵入リスク低減を図ることができた。また、この取組は畜主からも好評で家保と農家の連携を強化することができた。更に、県内他家保にも外国語標識を共有できたことから、県全体の衛生意識向上に役立つことができた。

### 展望

今後も継続して新規雇用の外国人向けに農場で勉強会を開催していきたい。また、技能実習生の受入れをしている監理団体と連携し、外国人が農場に入る前に衛生意識の底上げを図っていくことにつなげたい。

今回の取組を県内他家保にも普及し、飼養衛生管理基準の更なる徹底、ひいては県内の家畜伝染病の発生予防に努めていく。

### 【参考資料】

- 1) 農林水産省：飼養衛生管理基準ガイドブック（豚・いのしし編）  
[https://youtu.be/9biqtLL5a2M?si=Y\\_Mv](https://youtu.be/9biqtLL5a2M?si=Y_Mv)

[Y7QN7iupVfk](https://www.youtube.com/watch?v=Y7QN7iupVfk)

- 2) 国立環境研究所 福島支部：豚コレラ改  
め、豚熱って何!?

[https://youtu.be/Hj4rT5Wqn6A?si=a5Qb  
hneilBVLrVlq](https://youtu.be/Hj4rT5Wqn6A?si=a5QbhneilBVLrVlq)